母から娘へ

菊川　優加

香川県

菊川さんのお母さんは若い頃、
手話に興味はあったが、習うことができなかった。

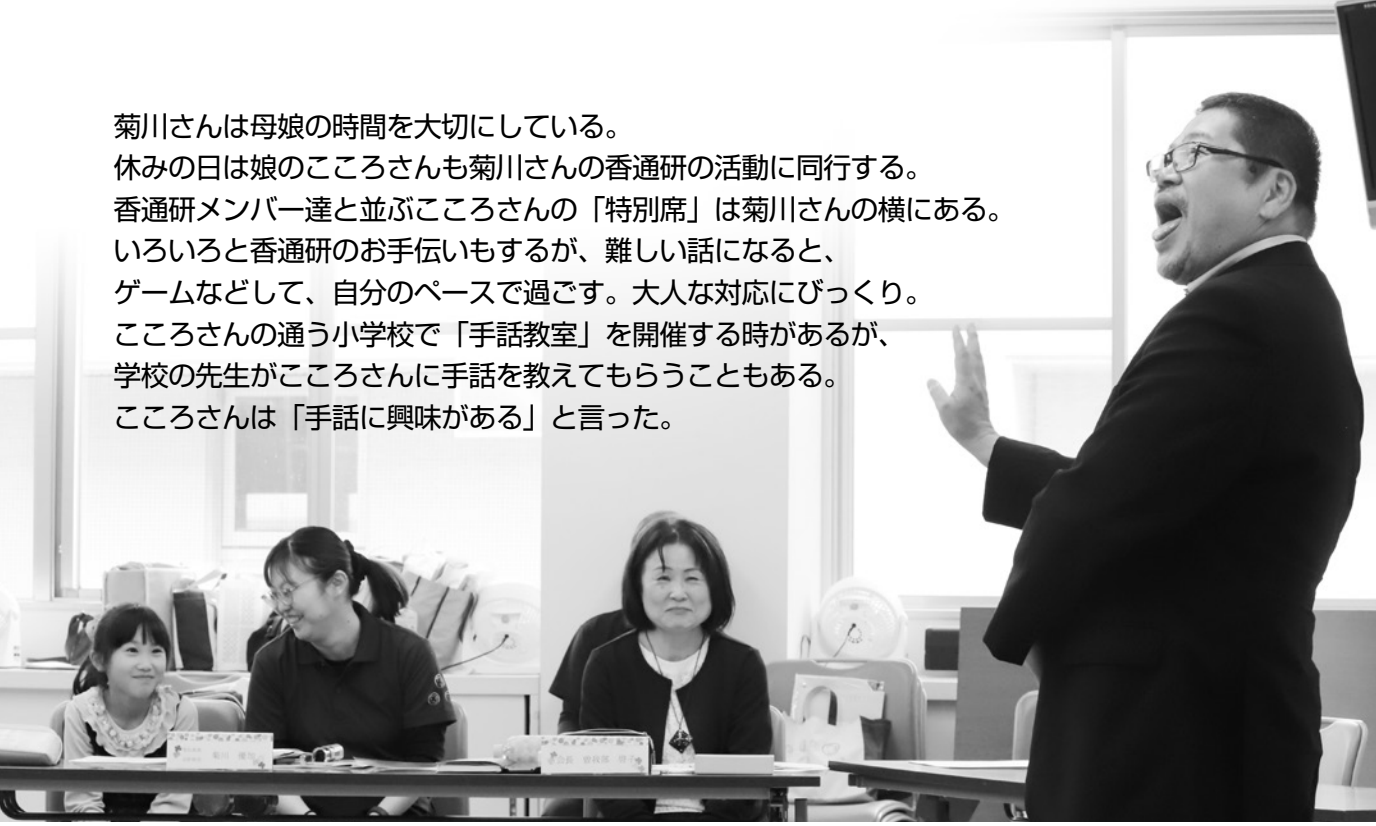
香川県手話通訳問題研究会（香通研）常任委員のメンバー

香川県聴覚障害者福祉センターにて

小学生の頃、母と共に行ったスーパーマーケットで手を動かして話す人たちに出会った。お母さんに「手話」と「手話通訳の仕事（手話通訳士）」があることを教えてもらった。その時に「手話通訳士」になりたいという夢ができた。
高校生になって手話サークルに参加。その思いは高校卒業後に菊川さんを東京の手話通訳士養成校である世田谷福祉専門学校へと動かした。
当時、実習を引き受けてくれた香川県聴覚障害者福祉センターに今、勤務している。

穴吹医療大学校　手話の授業

菊川さんは母娘の時間を大切にしている。
休みの日は娘のこころさんも菊川さんの香通研の活動に同行する。
香通研メンバー達と並ぶこころさんの「特別席」は菊川さんの横にある。
いろいろと香通研のお手伝いもするが、難しい話になると、
ゲームなどして、自分のペースで過ごす。大人な対応にびっくり。
こころさんの通う小学校で「手話教室」を開催する時があるが、
学校の先生がこころさんに手話を教えてもらうこともある。
こころさんは「手話に興味がある」と言った。



香通研の総会にて　香川県聴覚障害者協会・近藤理事長のご挨拶

手話との出会い
母と娘のドラマあり
母娘の世代をわたる手話の旅は続く

写真／文　松本　博